



Title	計画的市新街地の成熟過程における住環境マネジメントに関する研究
Author(s)	山本, 茂
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/46941
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について <a>〉 をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	やまもと しげる 山 本 茂
博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)
学位記番号	第 20390 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科環境工学専攻
学位論文名	計画的な新市街地の成熟過程における住環境マネジメントに関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 澤木 昌典 (副査) 教授 鳴海 邦碩 教授 新田 保次 教授 奥 俊信 教授 桑野 園子

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、我が国最初の大規模ニュータウンとして建設され、まちびらきから 40 余年が経過して、人口の減少と高齢化、住宅・施設の老朽化、住宅の建て替え等に伴う住環境の変化と住民間の対立など、様々な問題が生じている千里ニュータウンを対象に、住環境問題・課題の解決に向けた関係主体の取り組みの分析を通じて、ニュータウンの成熟過程における住環境マネジメント、とりわけ住環境マネジメントを担う主体と役割、仕組みなどに展望を得ることを目的に実施したものである。

「第 1 部：千里ニュータウンの住環境マネジメントの概観」の第 1 章では、千里ニュータウンの現況および計画・建設の特性を整理した。第 2 章では、住環境を構成する要素ごとにマネジメントの歴史を概観し、特性を整理するとともに、ニュータウンには一般市街地とは異なる住環境マネジメントが必要であることを明らかにした。

「第 2 部：千里ニュータウンの住環境マネジメントに関する考察」の第 3 章では、住民による 40 余年間の住環境保全活動について考察し、住宅・施設の更新等により住環境が大きく変化すると考えられる今後の住環境保全活動の課題や展望を明らかにした。第 4 章では、住民と行政による住環境保全ルールの変容の分析を通じて、ニュータウンの成熟化に伴う多様な課題の解決のために、住民みずから各地区的課題に対応するルールを整備していく必要があることを明らかにした。第 5 章では、居住者の高齢化に伴い住宅の維持・管理や住替えが困難になり、これに伴う住環境への影響が予測されることから、戸建住宅地居住者の定住・住み替えの意向や抱える問題を把握し、これに対応した住環境保全の課題を明らかにした。

「第 3 部：千里ニュータウンの住環境の総合的なマネジメントに関する考察」の第 6 章では、吹田市、豊中市が住環境の保全育成に関わってきた歴史を概観するとともに、両市がニュータウンの住環境マネジメントや市民との協働に積極的である現状を明らかにした。第 7 章では、(財)大阪府千里センターが商業・業務施設の管理運営を主業務としながら、まちづくりのコーディネーターや情報センターの役割を果たしたことを示すとともに、(財)大阪府千里センターの解散後のまちづくりの課題を明らかにした。

終章では、本研究から得られた知見を整理するとともに、ニュータウンの成熟過程、特に成熟化が進んだ更新期に求められる住環境マネジメントにおける主体とその役割、連携のあり方や仕組みなどに展望を描くとともに、本研究に残された課題を整理した。

論文審査の結果の要旨

本論文は、我が国のニュータウンについてその成熟過程に対応した住環境のマネジメントならびにその主体と役割、仕組みなどの基礎を得ることを目指したもので、我が国最初の大規模ニュータウンである千里ニュータウンを対象に、住民による住環境保全活動やルールづくり、行政等によるマネジメントの経緯等の分析による知見を取りまとめたものである。得られた結果を要約すると、以下のとおりである。

- (1)40年間にわたるコミュニティ紙の記事の調査に基づく住民による住環境保全活動の分析を通じて、それらが住環境の保全に大きな効果を果たしてきた一方で、住民側には「理想都市としての千里ニュータウン」という当初の計画を不変とする意識の硬直性があったことを明らかにし、計画変更の必要性への住民の理解を得ながら住民意向を計画に反映させていくことならびに住民間で地域の住環境像を共有しておくことの重要性を示唆している。
- (2)住民発意による住環境保全ルールである建築協定・地区計画・任意協定、ならびに行政による住環境保全のガイドラインに関する分析を通じ、ニュータウンの成熟化とともに住環境保全ルールの目標や内容、各主体の役割が変化することを明らかにし、今後の千里ニュータウンの各地区における地区特性を踏まえた住環境保全ルールの整備の重要性を示唆している。
- (3)居住者の高齢化の進展に着目した戸建て住宅地区居住者への意識調査の分析を通じ、定住意向者に対しての住まい方や建物・庭のメンテナンスに関する相談提供、住み替え意向者に対しての多様な住み替え住宅の整備や住み替えに関する相談・情報提供などの支援の必要性を明らかにするとともに、これらが従来の住環境保全活動やルールのみでは解決困難な問題であることを示唆している。
- (4)千里ニュータウンが位置する吹田市・豊中市による環境マネジメントの推移に関する分析を通じ、これまで個々に課題に対応してきた両市が成熟化に伴う共通の問題の解決と住民による多様な活動の活発化を目指し連携を深めていることを明らかにするとともに、(財)大阪府千里センターによる事業実績の分析を通じて同センターがまちづくりにおける情報センターやコーディネーターの役割を果たしてきたことを明らかにし、同センター解散後の吹田・豊中両市の役割の重要性を示唆している。
- (5)以上のような知見を踏まえて、成熟過程に対応したニュータウンの住環境のマネジメントならびにその主体と役割、仕組みについて整理するとともに、更新時期を間近に控えた千里ニュータウンの住環境マネジメントについて、その一般市街地と異なる特性を加味した上での地元自治体と住民等を中心とした専門家やNPO・公的住宅管理者などのネットワークによる住環境マネジメントの推進およびネットワーク拠点の整備などの有用な提言をしている。

以上のように、本論文は環境工学の発展に寄与すること大である。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。